

推奨学年：
第1学年～

小学生のおんがく1 P.34～45

「どれみと なかよくなるう」

育てたい力

- ・ 鍵盤ハーモニカのいろいろな音色や表現の仕方を試したり、音の高低や長短、強弱などの違いに気付いて表現を工夫したりする。
- ・ 音の高さの違いや、鍵盤楽器の音色のよさや面白さに気付き、鍵盤ハーモニカで音遊びをする。

教材や教具

●教科書の二次元コード

第1学年 P.37 「たのしく ふこう」 鹿谷美緒子 作詞・作曲

P.38 「どんぐりさんの おうち」 久野静夫 作詞／市川都志春 作曲

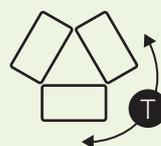
P.42 「なかよし」 海野洋司 作詞／佐井孝彰 作曲

●鍵盤ハーモニカ

場の設定

・ 椅子だけ置いてある教室では、三人のグループをつくり、椅子の上に鍵盤ハーモニカを置いて、床に座る。環境によって、横に並んだり向かい合わせにしたり、工夫する。指導者 **T** は表現する子供 **C** の近くに行けるように、立つ位置を工夫する。

・ 机のある教室では、三人のグループの机を横並びや向かい合わせにしてグループで音を聴き合える配置にする。指導者が子供全体を見えるように、適宜、位置を工夫する。



1 鍵盤ハーモニカでイキイキ！

息の使い方を工夫して、鍵盤ハーモニカで高低、長短、強弱の音を表す。

1 いろいろな長さや強さ、高さを工夫して一つの音を出し、学級全体で模倣する。

<例>

・短く弱く (*p*)



・やや長く強く (*mf*)

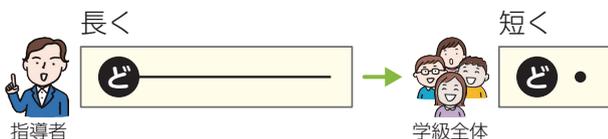


・高く長く



2 指導者が出した音とは違う長さや強さ、高さの音でこたえる。

<例>

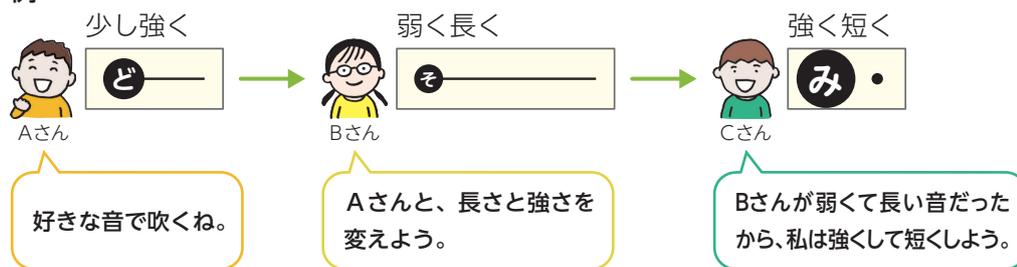


ポイント

- ・1では、鍵盤ハーモニカの一つの音を使い、音の長さや強さ、高さを変えて息の使い方の違いを表現します。掲示用の鍵盤ハーモニカや「どれみの風船」(例：指導者用デジタル教科書のTサポート機能)などを示しながら、どれみで模倣すると、より表現しやすくなります。C1→C全、C2→C全…というように、子供たちの出した音を順番に模倣して楽しむこともできます。
- ・2では、指導者が出した音とは違う長さや強さ、高さでこたえながら、即興的に音遊びをすることができます。

3 三人のグループで一人ずつ順番に、前の人が出した音とは違う長さや強さ、高さの音をつなげて楽しむ。

<例>



ポイント

- ・友達どうしの音が聴こえる強さ（音量）で表現するようにします。学級の半分が鍵盤ハーモニカで、残りの半分は声で表したり、順番を決めたりするなど、音環境にも配慮して一人一人の音が聴こえるようにしましょう。
- ・友達の音と反対の表現や、違う表し方を考えます。一人ずつ音をつなげて遊ぶ活動を通して、互いの音をよく聴き、即興的に表現する力が身に付きます。

2 お気に入りの音探し

鍵盤ハーモニカで、「お気に入りの音」を見つけて表す。

1 「お気に入りの音」を一つ見つけて、表現の仕方を考えて表す。

ポイント

- ・「お気に入りの音」は、長い音と短い音、強い音と弱い音、一つの音と幾つかの音、白鍵と黒鍵の音、高い音と低い音など、自分が見つけた音の中から一つ選んで「お気に入りの音」として伝え合うようにします。

- 1) 指導者の「お気に入りの音」を学級全体で模倣する。



- 2) 「お気に入りの音」で音回しをする。

ポイント

- ・鍵盤の位置によって変わる音の高さや、白黒の鍵盤にも注目しながら、「①鍵盤ハーモニカでイキイキ！」の活動で気付いた息の使い方による長さ、強さ、音色などを考えて、「お気に入りの音」を見付けるよう助言します。

- ・見つけた「お気に入りの音」を学級全体でつなげて、いろいろな音色があることに気付くようにします。面白い表現は、模倣したり、表現の工夫を伝え合ったりしてみんなで共有します。

3) 三人のグループで「お気に入りの音」をつなげたり、模倣したりする。

<例>



三人でつなげよう。



順番にまねっこしてつなげよう。

ポイント

- ・友達の見つけた「お気に入りの音」を模倣したり、一人ずつ順番につなげたりして、演奏の仕方や息の使い方による音色の違いを楽しむようにします。
- ・グループごとに発表し、学級全体でよいと思った表現は、みんなで模倣して表現の発想を広げるようになります。

2 「たのしく ふこう」(教科書P.37)の歌に続けて、見つけた音を表す。

- 1) 三人のグループで順番を決めて、一人ずつ表す。(歌→C1→歌→C2→歌→C3)
- 2) グループ内で順番を決めて、つなげる。(歌→C1→C2→C3)
- 3) グループ(G)ごとの気に入った音をつなげる。(歌→G1→歌→G2→歌→G3)

ポイント

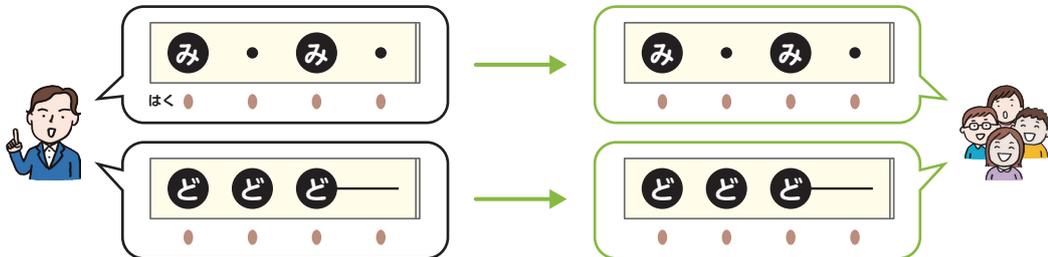
- ・聴いていて心地よい音を見付け、歌の最後に表現します。発表するグループ以外の子供たちは「たのしく ふこう」を歌いながら、友達の表現を聴き、よさや面白いところを見付けるようにします。

3 どみそで遊ぼう

鍵盤ハーモニカのどみその位置を覚えて、4拍のリズムで表す。

1 どみその音を見つけて、指導者が演奏する音を学級全体で模倣する。

<例>



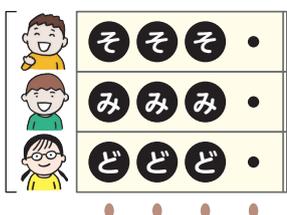
ポイント

・「どんぐりさんの おうち」(教科書P.38) でどとその鍵盤の位置を確かめ、指導者の音を模倣しながら音の高さの違いを理解します。また、どんぐりさんのどとそらまめさんのその間に、みかんさんのみがあることを確認します。演奏するときは、1、3、5の指を使うよう助言します。

2 どみその中の1音だけで、4拍の●●●●のリズムに合わせて表す。



3 どみその音を三人のグループで分担し、4拍の●●●●のリズムでつなげて表す。最後は三人で一緒に合わせる。



ポイント👉

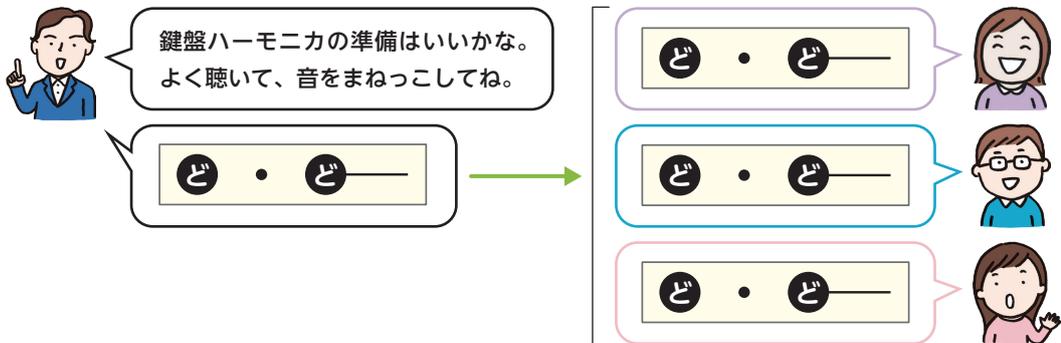
- ・ ●●●● のリズムで、4拍のまとまりを感じ取りながら表現します。指導者は「鍵盤ハーモニカの、どこの高さの●●●●を使いますか」と高さを意識するよう促し、子供たちの音から長さや強さの工夫を見だし、「短く切っていますね」「強い音ではっきり息を使いましたね」と演奏の仕方についてよさや面白さを伝えます。
- ・ ●●●● のリズムができるようになったら、♪や♪などを組み合わせてリズムを変えてみます。使った音や工夫したことについて、自分の言葉で伝えられるようにしましょう。

題材の学習内容や教材との関連

1 常時的な活動として位置付ける

鍵盤ハーモニカでいろいろな音を出す楽しさを味わったり、音色に対する感覚や音の高低を感じ取って音程感覚を養ったりしながら、子供の成長や学習内容に応じた演奏の仕方を学び、鍵盤ハーモニカの音色の特徴に気付くようにする。

1 1年生の鍵盤ハーモニカ学習の導入で行う。



ポイント👉

- ・ 鍵盤ハーモニカの学習の導入で、指導者の呼びかける音に対して、みんなで模倣したり、一人ずつ違う音でこたえたりしながら、「どんな音の出し方をしているのかな」「同じように吹いてみよう」などと投げかけることで、子供たちは演奏の仕方を想起し、鍵盤ハーモニカの演奏に慣れ、音色の特徴に気付いていきます。掲示用の鍵盤ハーモニカや「どれみの風船」で、適宜、鍵盤の位置や音の高さを確認するようにします。
- ・ 自分の音と友達の音をつなげたり、合わせたりする活動によって、子供たちが集中して音を聴く力を身に付けていきます。

2 様々な学年での鍵盤ハーモニカ学習の導入で行う。

1) 隣り合う三つの音を見付け、 で表す。



どれみふぁそから隣り合う
三つの音を見付けよう。

三つの音で、上がったり下がっ
たりできるよ



<例>



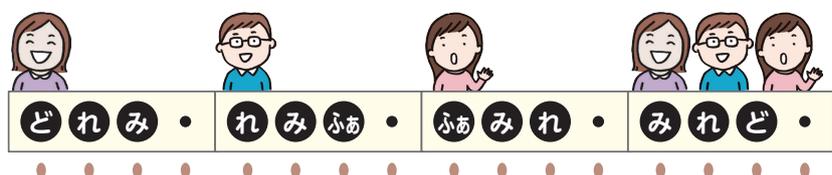
2) 見付けた音を三人でつなげて、演奏する。

<例>



3) 三人で決めた音を最後につなげて一緒に演奏する。

<例>



ポイント

- ・ 1年生「なかよし」(教科書P.42)を演奏する前に、隣り合う音「どれみ」「れみふぁ」「みふぁそ」を見付ける活動を行います。掲示用の鍵盤ハーモニカや「どれみの風船」で音の上行や下行を確かめたり、鍵盤ハーモニカで隣り合う音を確かめたりして、楽しく音の配置や旋律のまとまりを覚えていきます。
- ・ 決められた音を使って4拍の旋律をつくったり、8拍の旋律にしたりするなど、様々な旋律づくりにも応用できます。

2 題材の学習と関連付ける

鍵盤ハーモニカを扱う題材のねらいに沿った活動の取り入れ方や表現の仕方を工夫し、鍵盤ハーモニカで音遊びをする。

1 第1学年 題材6 『せんりつで よびかけあおう』

「せんりつの よびかけっこ」(P.48、49)

学習の導入で **●●●●●** の中から、**●●●●●** のリズムで旋律をつくる。

- 1) つくった旋律をいろいろな友達と鍵盤ハーモニカで模倣したり、つなげたりする。
- 2) ペアになり、つくった旋律を組み合わせる。
- 3) 呼びかけてこたえるような旋律になるように、いろいろな組合せを試す。

<例1>

(呼びかけ)	(こたえ)
み ふぁ そ ●	み ふぁ み ●
はく ● ● ● ● ● ● ● ●	

<例2>

(呼びかけ)	(こたえ)
そ み れ ●	れ み ど ●
● ● ● ● ● ● ● ●	

ポイント

- のリズムでつくった旋律を「呼びかけとこたえ」でつなげていくことを意識して、旋律の音の上がり下がりを実感できるようにします。
- 4拍の短いフレーズを、2回繰り返したり組み合わせたりして、8拍の長いフレーズにすると、中学年から学習するまとまりのある旋律を実感できるとともに、いろいろな旋律づくりに生かすことができます。

2 第1学年 題材7 『がっきと なかよくなるう』

「さがしてみよう ならしてみよう」(P.54、55)

学習の発展として、歌の6小節目と8小節目にある **●●●●●** に、**●●●●●** から「隣り合う三つの音」を選んで、鍵盤ハーモニカで演奏する。

- 1) **●●●●●** から「隣り合う三つの音」を選んで、**●●●●●** のリズムで演奏する。
- 2) ペアになり、歌の「さがしてみよう」「ならしてみよう」のあとに、自分の選んだ音を **●●●●●** のリズムでそれぞれ演奏する。

<例> 「さがしてみよう」 →  **ど し ら ●**

「ならしてみよう」 →  **み ふぁ そ ●**

3) 〈じゆうにならす〉のところは、とのつくった旋律を続けて演奏する。

<例>



ポイント

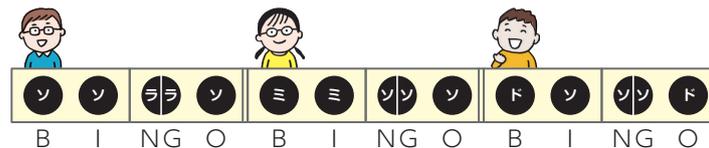
・これらの活動を通して、の4拍のリズムに親しみ、拍にのって鍵盤ハーモニカを表現する面白さを実感できるとともに、音色に気を付けて演奏したり、互いの楽器の音を聴き合って、音を合わせて演奏したりする技能を身に付けることにもつながっていきます。

3 第2学年 題材1 『音楽で みんなと つながろう』 『小犬のビンゴ』(P.8、9)

学習の導入で「^{ピーアイエヌジーオー}B I N G O」の部分を鍵盤ハーモニカの「お気に入りの二つの音」で表して楽しむ。

- 1) 歌に合わせて、のリズムを手拍子で表す。
- 2) 鍵盤ハーモニカから「お気に入りの二つの音」を見付け、のリズムで表現する。
- 3) 三人のグループになり、つくった鍵盤ハーモニカの旋律を紹介し合う。
- 4) 三人で順番を決め、歌と組み合わせて「^{ピーアイエヌジーオー}B I N G O」のところではそれぞれの旋律を演奏する。このとき、「^{ピーアイエヌジーオー}B I N G O」の部分は、三人の鍵盤ハーモニカの音のみとする。

<例>



ポイント

・クラス全体で歌う「^{ピーアイエヌジーオー}B I N G O」のところでは、鍵盤ハーモニカで一人ずつつくった2小節の旋律をつなげて合わせながら、楽しく音遊びをします。子供たちの実態に合わせて、お気に入りの音を自由に二つ選んだり、選ぶ音を指定して組み合わせたりします。

4 第4学年 題材8 『日本の音楽でつながろう』 『さくら さくら』の音階でせんりつづくり』(P.62、63)

学習の導入で日本の音階のよさを感じ取りながら、旋律をつくる。

- 1) の音階の音から隣り合う音を選んで、8拍ののリズムで旋律をつくる。

- 2) ペアになり、それぞれがつくった8拍の旋律を、呼びかけとこたえを意識しながらつなげて、鍵盤ハーモニカで演奏する。

<例>

呼びかけ (呼びかけ)

こたえ (こたえ)

- 3) ムーブの部屋（教科書P.63の二次元コード）にある箏の伴奏音源に合わせて、2) でつなげた旋律を鍵盤ハーモニカで2回繰り返して楽しむ。

ポイント

- 教科書の学習活動のように、箏を使って旋律づくりをするときに、つくった旋律を鍵盤ハーモニカで表すことができます。箏で演奏する前に鍵盤ハーモニカで試したり、箏の演奏を待つ間に鍵盤ハーモニカでムーブの部屋の音源に合わせて、つくった旋律を確かめたりする活動にも効果的です。
- 音階による旋律づくりの活動では、4拍や8拍のリズムに合う音を選んで鍵盤ハーモニカで演奏することを通して、音階の特徴や、そのよさや面白さを実感し、いろいろな音階で音楽をつくる学習に生かしていくことができます。

5 第5学年 題材4 『和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう』 「静かにねむれ」(P.34、35)

和音の学習の導入で行う。

- 1) 「今日の音」を決めて、協和音と不協和音の響きを楽しむ。
- ① 「今日の音」を一つ決める。
 - ② 三人のグループで「今日の音」の担当一人を決めて、まずその音を4拍のばす。
 - ③ 二人目は、「今日の音」よりも高い音を選び、4拍分のばして演奏し、重なり合う響きを聴き合う。最後は三人で重ねて演奏する。

<例>

C

B

A

※4拍ごとにプレスを入れる。

私が「今日の音」を担当するね。



Aさんのソと私のシは合うね。



私のドはシと合わせると不思議な感じだな。



④ 三人の音がきれいに響き合ったグループは、先生に聴いてもらう。

<例>

C			ミ	ミ
B		ド		ド
A	ソ	ソ	ソ	ソ

※ 4拍ごとにプレスを入れる。

⑤ 同じ3音を選んだグループを見つけて、一緒に演奏する。

ポイント

- ・ 三つの音を重ねる遊びを通して、不協和音の不思議な響きを感じ取ったり、協和音との響きの違いに気付いたりすることができます。不協和音の響きを感じ取ることも楽しみながら、協和音の落ち着いた感じの響きに気付くようにし、和音の響きへの関心を高めていきます。

2) ハ長調の主要な和音 I、IV、V、V₇ を鍵盤ハーモニカで演奏して、各和音の響きを感じ取る。

- ① 三人のグループになり、I の和音「ド」「ミ」「ソ」を1音ずつ分担する。
- ② 一人ずつ鍵盤ハーモニカで演奏し、つなげたり重ねたりして響きを感じ取る。

<例>

C			ソ	ソ
B		ミ		ミ
A	ド			ド

- ③ IV「ド」「ファ」「ラ」、V「シ」「レ」「ソ」、V₇「シ」「ファ」「ソ」も同じように分担して、鍵盤ハーモニカで音をつなげたり重ねたりして、響きの違いを感じ取る。
- ④ グループごとに演奏する和音を決め、「静かにねむれ」の歌に合わせて、各グループの和音の響きを鍵盤ハーモニカで重ねる。

まとめ

- ・ 鍵盤の位置から音の高低に気付き、いろいろな音階を知ったり、確かめたりすることができるようになります。また、息の使い方によって、音の長短、強弱を変化させることもできます。さらに、自分の演奏する1音を友達とつなげて旋律をつくったり、友達と1音ずつ重ねて和音の響きを確認したりしながら、主体的・対話的な学習を進めることができます。